

# 平和・観光グループ

平和・観光グループの質問を始めます。

私たちのグループは被爆体験の伝承や広島県に観光客を増やすための取組について話し合いました。

このことについて2つの質問をしたいと思います。

## 質問1 「被爆体験の伝承」について

1つ目の質問は、「被爆体験の伝承」についてです。

今年5月に広島県でG7が開催され、各首脳が平和記念資料館へ訪れ、慰霊碑に献花したり、原爆や平和について、テレビや新聞などたくさん特集があり、世界中に報道されました。

注目されている今だからこそ、なぜ戦争が起こったのか、これから戦争を起こさないためにはどうしたらよいのか、みんなに平和について考えてもらうチャンスだと思います。

被爆者の方から話を聞く機会が減ってきているので、いろいろな方法で被爆者の声を伝えていくことが大切だと思います。

そこで提案です。被爆者の体験を、マンガや絵本などの読みものや、アニメや映画などの映像を活用して、幅広い世代に広く伝えていく取組をしてはどうでしょうか。

マンガや絵本であれば、ストーリー性もあり、小さい子供から大人まで読むことが出来、理解することができます。アニメや映画は動きがあり伝わりやすいと思います。

子供から大人まで、世界中の人が平和について考えるきっかけとなり、核兵器のない平和な世界になってほしいです。

## 答弁（知事）

G7広島サミットで、各国の首脳が資料館を見学し、被爆者の証言を聴き、慰霊碑へ献花されたことは、世界に大きなインパクトを与え、世界平和の実現に向けた力強いメッセージとなりました。

このように、世界中の人たちに、広島が経験した被爆の実態を伝え、核兵器による

破壊の現実とその悲惨さを理解していただくことは、非常に重要です。

御提案のあった、マンガやアニメの活用は、被爆者の体験を、子供から大人まで幅広い世代に分かりやすく伝えるために、とても有効な方法と考えています。

広島県では、「国際平和拠点ひろしま」のウェブサイト上で、当時、広島電鉄の運転手をしていた少女が原爆に遭った時の話などをマンガで紹介しています。

ほかにも、皆さんに読んでほしい原爆や平和について描いた絵本や映画なども紹介しています。

これからも、このようなマンガや絵本などを活用して、被爆者の体験を、できるだけ多くの人にわかりやすく伝えるための取組を、進めていきます。

将来を担う皆さんも、一人一人が自分事として、国際平和について、しっかりと学び、その実現のために、何ができるか考えていただき、我々と一緒に、核兵器のない平和な世界を築いていきましょう。

## 質問2 何度来ても飽きない広島県について

2つ目の質問は、「何度来ても飽きない広島県」についてです。

広島県の観光客は、令和元年は観光客数が6,719万人なのに対して、新型コロナウイルス感染症の流行によって令和3年は3,966万人と大きく減少してしまいました。しかし、令和4年は4,907万人と少しずつ観光客が増えてきました。

広島県の観光客をさらに増やすためには、リピーターになってもらい、何度も広島県を訪れてもらうことも大切だと思います。

広島県を訪れる観光客のうち、広島市、尾道市、廿日市市を訪れる人が多く、その他の地域については、あまり知られていないのではないかと思います。

私の周りの人におすすめの観光スポットは？と聞くとやはり原爆ドームや宮島などの回答が多かったです。

もちろん原爆ドームや宮島も訪れてほしいのですが、広島県には、他にも色々な魅力があるので、それも満喫してもらい、「次回は、ここにいこう、あれをしよう」となってほしいです。

そこで提案です。各市町にも協力してもらい、地元の人のみ知る穴場スポットや隠れ名所、推しグルメなども盛り込んだ地域ならではのパンフレットを作ってはどうか。

そうすれば、新たな広島県の魅力としてアピールすることができると思います。ま

た、それをSNS等で情報発信することで、多くの人に見てもらえ、広島県の色々な場所を訪れてみたいと思ってもらえるのではないのでしょうか。

2つ目の提案は、「広島県の新たな観光スポット」についてです。

広島県に何度もきてもらう為に、観光スポットを充実させることも大切です。

以前、外国人観光客の方が、日本料理を作ったり、武士になったり、実際に体験をしたのが楽しかったという話を聞いたことがあります。

そこで提案です。広島の特産品をつくる体験が出来る施設や、体を動かして遊べる施設など、みんなで楽しめる観光スポットを増やしてはどうでしょうか。

例えば、お好み焼きなどを作れる体験施設や、トランポリンやVRを使って体を動かせる施設などがあれば、たくさんの方が楽しめてもっと広島県を満喫できると思います。

3つ目の提案は、「宿泊施設の充実」についてです。

広島県に旅行に来て、宿泊する人は、令和3年は559万人だったのに比べ、令和4年は762万人と増えています。宿泊する人が増えれば、もっと広島県の色々な場所を訪れてもらえると思います。

県外には例えば、キャラクターのホテルや遊園地があるホテルなど楽しい宿泊施設があります。魅力的な宿泊施設があれば、観光だけでなく、宿泊施設が目的となって広島県に行ってみようと思うきっかけになると思います。

そこで提案です。広島県でもみんなが楽しめる宿泊施設の充実に取り組んではどうでしょうか。

例えば、広島の食材のみを使った宿泊施設や、職場体験ができる宿泊施設などがあれば面白いと思います。また、カープやサンフレッチェをモチーフにした宿泊施設がスタジアムの近くにあれば、応援で来た人も楽しめると思います。

さらに広島観光ツアーを実施し、このような宿泊施設も組み込めば、もっと広島らしさが出でると思います。

このような取組で、何度来ても飽きない広島県になり、たくさん観光客が来てくれたらうれしいです。

答弁（商工労働局長）

広島県へのリピーターを増やし、観光客の更なる増加を図っていくためには、原爆ドームと宮島の2つの世界遺産だけではなく紅葉が美しい三段峡や帝釈峡、牡蠣や広

島牛といったおいしい食材、しまなみ海道でのサイクリング体験などの広島県の多彩な魅力を多くの方に届け、繰り返し行ってみたいと思って頂くことが必要であると考えています。

このため、広島県では、主要な観光スポットやグルメ、モデルコース等を紹介したガイドマップなどを市町等と連携して作成していますが、今後は、提案のありました、地元の人のみ知る穴場スポットや、隠れた名所、お勧めの体験メニューなど、その地域ならではの観光スポットについても、SNSでの発信の充実やパンフレットの作成を通じて、紹介していきたいと考えています。

次に、みんなで楽しめる観光スポットについては、日本文化への関心が高い外国人観光客や、アクティブな体験を楽しみたい方に向け、夜神楽ツアーや、江の川の大自然や食を満喫するガイド付きサイクリング、G7広島サミットでイギリスの首相が訪れたお好み焼きの調理体験などのメニューづくりや紹介をしてきたところですが、引き続き、本県の伝統文化や自然などを体験できる新たな観光メニューの開発を進めていきます。

また、みんなが楽しめる宿泊施設の充実につきましては、瀬戸内の小魚や地物の有機野菜など、地産地消の料理や、宿泊する子供がパティシエやフロントサービスなどの職業体験をできるプランの提供などに取り組んでいる県内の旅館やホテルもここ数年増えてきています。

こうした中、広島県では、レモンの収穫体験と瀬戸内の絶景温泉宿や、夏のスキー場でのバギー体験とグランピングなど、広島ならではの体験と宿泊を組み込んだ観光メニューづくりなどに取り組んでいるところです。

今後も、観光連盟や市町、旅行会社などの観光に関わる方々と一緒になって、広島の魅力を経験できる宿泊施設の充実に取り組んでいきます。

県としましては、こうした取組を積極的に展開し、日本を代表する観光地として国内、海外から多くの方が訪れる「何度来ても飽きない広島県」の実現につなげていきます。